
こたつ

棒人間

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

こたつ

【Nコード】

N9882Y

【作者名】

棒人間

【あらすじ】

おこたを中心としたお話です。

みかんやアイスや喧嘩やら。

ほっこりして貰えたら幸いです。
良かったです。

（前書き）

こたつと言えばみかん。

こたつに集まってみかん食べるって言つのも良いものです。

ほっこりできる様な作品にしたつもりです。

「ねえねえ、みかんないの？」

小説を読んでもそれを取り上げて問うて来る妹。
一度手元から目を離し廊下に有っただと答える。

「えー…、取ってきてよお。」

「そう言うのは言い出しつpegいくもんだろ。」

そう答えたのだが横で取ってきてコールをして駄々をこねるしまつ。
しょうがないのでじゃんけんを提案。
勿論妹も乗っかって来た。

こたつを挟んでの一本勝負。

結果は俺の勝利。

「わ、私負けたんだから兄さん取って来てよお！」

なんともわからない無茶苦茶理論。
負けた人が取りいくべきだろ。

曰く、「今のじゃんけんは男気じゃんけんだから勝った人が行くの
！」だとか。

男気溢れるらしい俺は寒い中廊下へ。
さっさとこたつに戻ろう。

冷んやりしたフローリング。
家の中だというのに息が白い。

こたつに入ると遅いと妹に文句を言われたのでみかん没収の刑に処
することになった。

悲しそうな顔になったのでみかん解禁令発令。
ぱっと嬉しそうな顔になった。

暫く俺は読書、妹はみかんを食べるだけの簡単なお仕事に勤しむ。

「ただいまー」

弟が帰って来た。

「おかえり。寒かったろ？こたつ入りな。」

「ふおはへり。」

まだお仕事中の妹が何か言っているが聞き取れない。
気づくと妹の前にはみかんの皮が散乱していた。

「ふー… ってあれ?! みかん全部食ったのねーちゃん?!」

20個近くあったみかんは妹と言う名のブラックホールに飲まれた。

「ふあ、ふはふあんへんふよ。」

日本語で大丈夫だよ、妹。

リスの様に頬袋を作って幸せそうな妹だった。

「ねーちゃん取ってこいよー。全部食ったのねーちゃんじゃん。」

「ほーへーひ… 公平にじゃんけんでしょ。」

妹、お仕事完了。

お疲れ様です。

俺は栞を挟んで読んでいた小説をこたつの恥に置いた。

取ってこい、じゃんけんだの終わらない言い争いが行われている中
へー石を投じる。

「アマダで決めようぜ。」

「それだ!」

2人の首がグルンと回りこちらを向く。

ここ最近で1番びびった。

3本縦線を引き横線を適当に引く。

縦線の先に 1つと×2つを書き、紙で隠して弟、妹の順に横線を書き込ませる。

「よし、当たった奴みかんを取ってこい。良いな？」
各々から了解の返事。
では…。

結果。

妹選手の優勝です。

優勝者にはみかんを取りいく義務を贈呈です。

「可愛い妹が凍えてフルフル震えてるのに！良いの？！」

「早く戻って来いよ。」と弟。

俺も追い討ちをかける。

「早くみかん持って来てくれる偉い子には今度良いものあげるんだけどなあ。」

妹が動いた。

それも風切り音がする位の勢いで。

弟も動いた。

それもおこたが吹き飛ぶ位の勢いで。

両者ほぼ互角の戦い。

今折り返しに入った！
みかん箱

さあ目が離せない展開になって来た。

最終コーナー曲がった！

どうなるっ？！

ゴールっ！

…おおっと！同着にみえるぞ？
勝負はビデオ判断になります…。

そうですね…僅かに弟が勝ったかに見えますが…。

勝者は妹！

いやー、流石ですねー。

今のお気持ちを一言どうぞ！

「今度なんか奢ってね、兄さん！」

と言う訳で無事みかんを手に入れ帰ってきた2人だった。

何奢らせるつもりなんだろうか。

また小説を読むのを再開した俺とみかんを食べるお仕事を再開する
妹とPSでゲームをする弟でぬくぬくしていたら姉が帰って来た。

「おはへひー。」

リスさん？そろそろ日本語で話そうよ。

「おかえり。」

「おかー。」

「えりー。何々？私居ない間に兄弟愛育んじやってんの？」

「そんな所かな。」

ふーんと言いながら姉もこたつに入って来る。

4人になると狭い。

だけどたまにはこんなのも良いな。

姉がこたつの上にビニール袋を置いた。

中身はカップのアイスクリームだった。

「ほら、お主ら好きなのを選べい！」

予想通り弟、妹は1つしかないチョコレート味を取り合っていた。
がるる！とか、きーきー！とか色んな獣の声を楽しめる。

「姉さんワザと1つしか買わなかったでしょ？」

そう聞きながら抹茶味を取る。

姉はニヤリとして「さあどうだか」と答えた。

因みに姉はカプチーノ味を取った。

残りは抹茶味だけだ。

どうやらチョコレート味は弟が勝ち取ったらしい。
自然界の縮図、弱肉強食がここにあった。

「兄さーん、姉さーん！弟があー！！」

「お、俺が勝ったんだから俺の！」

はあ、全く…。

其処で1つ提案をする。

「半分抹茶味、半分チョコレート味にすれば2つも楽しめるぞ？」
姉も便乗して言う。

「そうだねー、そっちの方が沢山美味しいと思うよ？」

そう言っただけの抹茶を掠め取って1口。

んー、美味し！とか言っている。

俺にも1口寄越せ！

「ただいま…ってあら？ こたつで寝ちゃって全くこの子達は…。」

そう言っただけの子達の母親は4人を起こしにかかる。

「ほら、風邪ひいちゃうわよ？ …全然起きないわねえ。」

少し困った顔をしたが4人の幸せそうな顔を見て微笑んだ。

「今日は鍋にしようかしら？」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9882y/>

こたつ

2011年11月29日21時46分発行